



高知市社協 福祉教育推進マニュアル



ほあっちょけん学習のススメ

～高知市社協のすすめる福祉教育～



社会福祉法人 高知市社会福祉協議会 地域協働課

Contents

【第1章】はじめにお読みください

- 1. 「福祉(ふくし)」の意味 1
- 2. よりよい学習とするために 1

【第2章】高知市社協のすすめる福祉教育

- 1. 高知市社協の目指す福祉教育 2
 - (1) 保育園・幼稚園, 学校を中心とした福祉教育 3
 - ① 基本的視点
 - ② 福祉教育を進めるうえで大切にしていること
 - ③ 福祉教育の3ステップ
 - ④ 取り組み事例
 - (2) 地域を基盤とした福祉教育 12
 - ① 基本的視点
 - ② 「学びのプロセス」(例)
 - ③ 取り組み事例

【第3章】福祉教育の進め方

- 1. 福祉教育の「相談」から「実施」までの流れ 17
- 2. 実践する上でのポイント 18

- 様式集 19



1. 「福祉（ふくし）」の意味

「福祉」とは **ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ とも言います。

福祉の「福」・「祉」というそれぞれの言葉には、どちらも“幸せ”という意味があります。

これまで福祉は、「障害者や高齢者などの社会的に立場が弱い人のためのもの、そのため困っている人に配慮してあげたり、助けてあげたりするもの」と考えられがちでした。しかし、現在は「自分を含めすべての人が住み慣れた地域や社会で幸せになる」という、より広い意味へと変化しています。

わたしたち高知市社協は、自分の幸せもみんなの幸せも同じように尊重し、共に生きる地域社会を構築していくことが福祉につながるということを、理解することが必要だと考えています。



2. よりよい学習とするために

福祉教育は、車イス体験やアイマスク体験、高齢者疑似体験などで障害のある人や高齢者の動きにくさを体験したり、手話や点字を覚えたりすることだけを目的とするものではありません。

体験学習は機能障害や能力低下の理解にはつながりますが、それだけでは「ふくし」全体の理解にはつながりません。その機能障害や能力低下によって生じる活動や参加の制約があることに気づき、どんなことがあればみんなと同じように生活できるのかを考えていくことが重要です。

また、一方的に教えるのではなく、参加した子どもや大人も含めて、参加者同士がお互いに学び合う関係性をもつことも大切です。



【第2章】高知市社協の進める福祉教育



1. 高知市社協の目指す福祉教育

福祉教育とは（概念）

「地域福祉を推進するための福祉教育とは、平和と人権を基盤にした市民社会の担い手として、社会福祉について協同で学びあい、地域における共生の文化を創造する総合的な活動である。」とされています。

（引用：2005年全社協「社会福祉協議会における福祉教育推進検討委員会報告」）

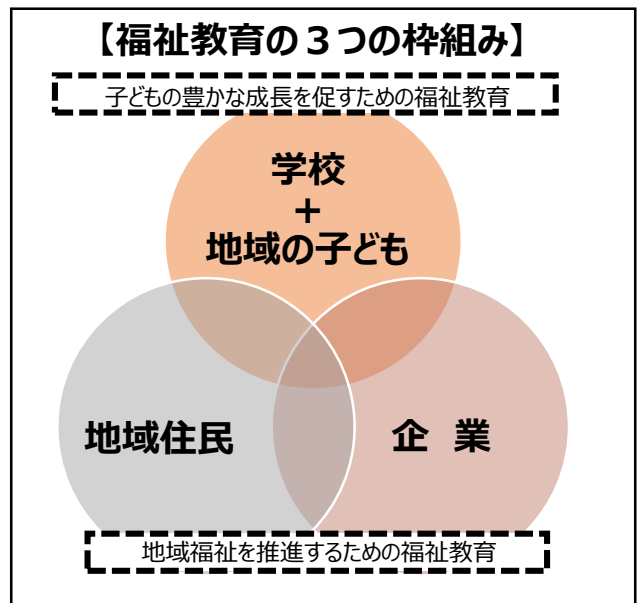
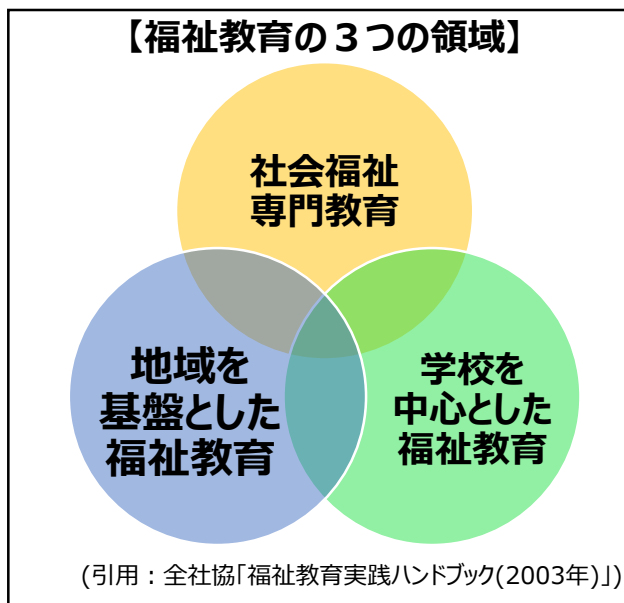
【参考】

○福祉教育は、地域の課題、ふくしを我が事にするきっかけとなります。

我が事にする土台として、幼少期から地域福祉に関心を促し、地域活動への参加を通して人間形成を図っていく福祉教育が必要である。就学前から義務教育、高等教育といったそれぞれの段階で地域貢献学習（サービスラーニングやボランティア活動）などに積極的に取り組み、福祉意識の涵養(かんよう)と理解を深めていくことが大切である。またこうした地域福祉の学びは生涯学習の観点からも取り組んでいかなくてはならない。

（引用：厚労省「地域力強化検討会（中間とりまとめ）」）

福祉教育の3つの領域と3つの枠組み



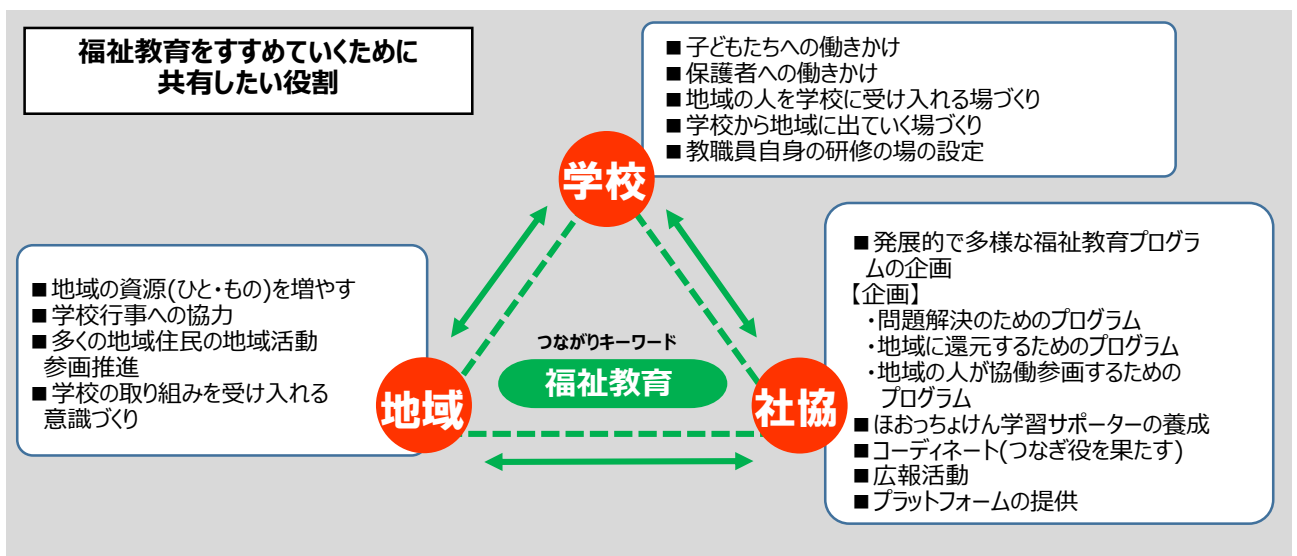
高知市社協では【福祉教育の3つの領域】のうち「学校を中心とした福祉教育」及び「地域を基盤とした福祉教育」を推進しており、それを【福祉教育の3つの枠組み】として整理し、進めていきます。

福祉教育として扱うテーマ

福祉教育として扱うテーマとして、これまで多く取り組んできた【高齢・障害(身体・視覚障害等)分野の理解】と合わせて、近年の地域における新たな福祉課題である【ひきこもり・孤立・生活困窮等】、対象やテーマを幅広く捉え取り組んでいきます。

また、その地域を支えている様々な活動や制度・サービスなど、フォーマル・インフォーマルそれぞれの仕組み等についても合わせて伝えていくことで、共助の必要性の理解にもつなげていきます。

(1) 保育園・幼稚園・学校を中心とした福祉教育



引用：全国社会福祉協議会 福祉教育実践ガイド
「地域福祉は福祉教育ではじまり福祉教育でおわる」

① 基本的視点

ひとりひとりが幸せに生き、ともによりよく暮らすため、地域のさまざまな「ひと・もの・こと」とのつながりを通し、自ら気づき、考え、行動できる力を育てる。

高知市社協では、福祉を「ふだんの 暮らしの しあわせ」とし、それを「みんなと一緒につくっていく」ものと考えています。

さらに、自分の幸せも他人の幸せも同じように尊重し、共に生きる地域社会を構築していくことが福祉につながるということを、子どもたちに理解してもらうことが必要だと考えています。

②福祉教育を進めるうえで大切にしていること

高知市社協では、福祉教育を進めるうえで、「共に生きる力を育む」こと、「体験的な学習を大切にする」こと、「地域の一員としての意識を育てる」ことの3点を大切にしています。

「共に生きる力」を育む

体験的な学習を大切にする

地域の一員としての意識を育てる

「共に生きる力」を育む ～教育と福祉の共通する基本理念～

福祉(ふくし)とは、全ての人が「ふだんの 暮らしの しあわせ」を実現することであり、その根拠は「生存権保障」(憲法第25条)と「幸福追求権」(憲法第13条)です。かけがえのない命であるすべての人が尊重される社会を目指すソーシャルインクルージョン(※)の考え方にもつながり、その理念を広めていくことは福祉教育の目的であり、一人ひとりが、自分自身が価値ある存在であること(自尊感情)や命を大切にするを学び「共に生きる力」を育みます。

体験的な学習を大切にする ～同情から共感へ～

福祉は、「何を」学ぶかということだけではなく、「どのように」学ぶかが大切です。単に疑似体験や技術習得だけを目的とした体験学習は、結果として「かわいそう」といった、自分を優位におき相手に同情するようなマイナスの福祉観を生む場合があります。子どもたちが自ら考え、判断し、表現する学習とするためにも、福祉を他人の問題として捉えるのではなく、生活のしづらさなど「他の人のこと」を「自分のこと」として考えられるような体験学習となることを大切にしています。

地域の一員としての意識を育てる

学校におけるいじめや不登校は、学校教育のみの問題ではなく、家庭の養育機能や地域コミュニティ機能の低下とも大きく関わっており、地域の教育力や福祉力を活用して、学校と地域が協働して子どもたちの教育に関わることが必要です。福祉教育の場が地域に拡がり、子どもたちが地域の一員としての意識を持つことが、豊かな地域づくりにも繋がっていきます。

※ ソーシャルインクルージョン

「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念

③福祉教育の3ステップ

福祉教育では「気づく」「考える」「行動する」の3ステップを大切にします。

この3ステップは、保育園・幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、大学の各段階や児童生徒の発達段階や理解度に応じて力点が変わってきます。

			自己	他者	地域
ステップ1 (ホップ)	気づく	自分や自分の身近なひと・もの・ことへの興味・関心をもつ	自己を大切にする	他者への思いやりや尊重、他者を大切にする	自分が暮らす地域を好きになる
			自分の特徴に気づき、良いところを伸ばす	相手のことを思いやり、進んで親切にする	地域の伝統と文化を大切にし、地域を愛する心をもつ
ステップ2 (ステップ)	考える	さまざまなひと・もの・こととのつながりを通して、地域のあり方について考える	自己を見つめ向き合う	他者との協力	地域の担い手として自覚を持つ
			自分の特徴を知って、悪いところを改め、良いところを積極的に伸ばす	日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる	身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす
ステップ3 (ジャンプ)	行動する	社会の一員として、ともに幸せに生き、よりよく暮らすため行動する	自己の生き方を考える	他者との支え合い	地域の担い手として参加する
			自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する	多くの人の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる	地域社会の一員として自覚をもって地域を愛し、地域の発展に努める

引用：高知県社協「始めよう福祉教育、変えてみよう福祉教育～学校と地域をつなぐ学びをお手伝いします～」

④取り組み事例

保育園・幼稚園における実践事例



ちがい と おなじ

地域の身近な大人とのふれあいをとおして



福井保育園

年長組



ねらい くふう

シワがいっぱい
あるねえ！



福井保育園の特徴は「高齢者疑似体験」の工夫♪従来の目・耳・手の体験の際、学習に参加してくれている地域の高齢者の方々との手比べや補聴器や老眼鏡を見せてもらったりと、触れ合う時間を取ることで、自然な形で交流を深めています。

「ほおっちょけん」の思いを育む体験学習

当保育園では「ほおっちょけん学習」を年1回行っています。子どもたちは、純粋に学ぶ姿勢があり、高齢者が普段感じている動きにくさ、見えにくさ、聞こえにくさなどを体験すると、高齢者への接し方が変化してきます。高齢者の心や体をいたわる様子を保育園の行事の中で見ると、思いを育む体験学習は大切な取り組みだと感じます。



福井保育園 園長 渡邊 秀一 先生



みんなは地域の宝物！

ワクワク・ドキドキ楽しみながら学ぼう！



愛宕幼稚園

年長組



レンジャーに扮して
地域活動を紹介！

ねらい くふう

愛宕幼稚園の特徴は、なんといっても「あたごレンジャー」。幼稚園お手製のレンジャーの衣装に身を包んだ地域の方々が防災活動や交通安全の活動、日頃の見守りなど地域の活動を子どもたちにもわかりやすく紹介しています。「みんなは地域の宝物！」子どもたちの幸せを願う優しい気持ちが溢れた学習になっています。

あたごレンジャー参上！



小学校における実践事例



地域に根付く子どもを守り育てる風土 青色防犯パトロールの活動紹介をとあして



秦小学校

2年生



ねらい くふう

秦小学校の特徴は、学習を通して地域全体で子どもたちを見守り育てようと取り組んでいること。その証拠に学習当日には多数の地域住民が参加し、子どもたちとともに学びを深めています。子どもたちにもその想いはしっかり伝わっているようで、学習後の日常的なつながりにも発展しています。

「地域への恩返し」が少しでもできれば・・・

私は生まれも育ちも秦地区です。私が子どものころは地域の大人たちが見守ってくれていて、安心・安全に遊ぶことができました。次は大人になった自分たちが子どもたちを見守る番だと思っています。青パトの活動を通じて子どもたちを想う気持ちが少しでも伝わって、みんなが秦地区を好きになってくれるといいなあと思います。



秦地区社協 会長 葛目 顕さん



ほおっちょけんの気持ちを込めて ～大津劇団より～



大津小学校

3年生



ねらい くふう

大津小学校では、大津地区民生委員児童委員の方々の劇や講話を通して、子どもたちに思いやり・お互いさまの気持ちを考えてもらう機会となっています。子どもたちからは、「自分が助けられない時は近くの人を呼んでくる」「困っている人がいたら声をかける」といった感想が聞かれるなど、ほおっちょけんの優しい気持ちが芽生える機会となっています。

優しい気持ちを大切にしてほしい

大津小学校では「優しい町 大津」をコンセプトに「みんなが安心して暮らせるまちづくり」を目指して、子どもたちに高齢者とのかわり、バリアフリー、やさしさについての授業を行っています。ほおっちょけん学習もその授業の一環として取り組んでおり、おたがいさまの気持ちだけでなく、地域の方が日頃から見守ってくれていることを知る機会となるなど、子どもたちにとっても沢山の学びへと繋がっています。

大津小学校 担任の先生

高校，専門学校における実践事例



成すことによって学ぶ

社会福祉基礎学習をとおして



春野高校

3年生



ねらい くふう

春野高校では授業の一環で、社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割について理解し、福祉の向上を図るカリキュラムがあります。学習のねらいとして、地域の多様性に気づき、福祉を身近に考えるきっかけとなること、身近な支援を必要とする方への関わりの一歩としてボランティア体験や、地域福祉活動への参画を行っています。

学生の態度も徐々に変化

班活動をするのが苦手で活動や会話が少なかった生徒が、授業を重ねるにつれ、意思表示がスムーズになり生徒間だけでなく講師との意見交換も活発になった。当事者の方から直接、お話が伺える機会があることは有り難い。

春野高校 担当の先生



福祉って意外と身近にある！？

私たちが考える地域福祉



平成福祉専門学校

2年生



ねらい くふう

平成福祉専門学校の特徴は、スマートフォンを活用したグループワーク。障がい者マークや歩道橋、集会所など「それぞれの学生が考える地域福祉」をスマートフォンで撮影し、学生同士楽しみながらグループワークをすることで、地域福祉をより身近に感じることのできる学習として実施しています。

学生が積極的に学べる内容

学校としても最近、地域福祉に関する授業を始めたばかりで手探り状態だったため、今回の授業はとても参考になりました。

特にグループワークやプレゼンの時間が多くあり、学生が自分たちで意見をまとめて発表する機会があったのはとても良かったと思います。講義のあと学生に話を聞くと、「福祉に対する視野が広がった！」という声が聞かれていました。地域福祉をより身近に感じられたのではないかと思います。

平成福祉専門学校 担任の先生

(2) 地域を基盤とした福祉教育

① 基本的視点

急速な少子高齢化の進行による人口減少や厳しい経済情勢の中で、住民同士の間関係が希薄化するなど、地域の支え合いが弱まりつつあり、孤独死・虐待等に代表される様々な社会問題が顕在化しています。

福祉教育は「共に生きる力を育む」まさに社会をつなぐ力を養い、これらの問題に立ち向かう礎を築きます。

高知市社協では“共生・支え合い”による地域社会の実現を目指し、誰もが地域の一員として共に生きていける社会の実現を目指しています。そのためには「共に生きる力を育む」福祉教育の場を学校に限定せず、広く地域での活動にしていくという想いを込めて、地域福祉教育という名称を用いています。

福祉教育で培われた「共に生きる力」は新しい問題にも立ち向かい、解決していく力を養ってくれると考えています。

② 「学びのプロセス」(例)

① 気づく

自分たちの地域には、様々な人たちが暮らし生活していることやそうした人たちを支える人や制度などの仕組みがあることに気づく。また、誰もが「安心して自分らしく暮らしたい」と願っていることや、様々な可能性を持っていることを知り、お互いの違いなどを認め合う大切さに気づく。



② 意識する

気づき学んだことを理解し、気にかけて意識するようになる。自分たちができることは何かを考え、相手を思いやる気持ちを育む。



③ 関わる

意識することで「もっとこうすればよい」「何かしてみよう」という気持ちになり、相手のことを考え、具体的に関わりが持てるようになる。



**④ 支えあう
(影響しあう)**

一人ひとりが気づき、意識したうえで、相手の立場を考えて関わることにより、お互いに支え合う(影響しあう)社会の実現を目指す。

地域の活動には、福祉教育そのものを目的としていなくても、活動を実施する過程や振り返りの際に参加者の「学び」を意識することで、福祉教育になる活動が多くあります。高知市社協では、このように様々な活動を通して学ぶ機会をつくる「福祉教育的機能」も大切にしていきたいと考えています。

③取り組み事例

地域における実践事例



「仲間づくり」から「生活支援」へ

～団塊世代の取り組み～



一宮地区 土佐いっく成年団



定年退職した団塊世代を中心とするボランティアグループ。「無理なく楽しむ」をモットーに地域の交流を生み出す一方で、地域共生社会の理念や一宮地区における高齢者支援、生活困窮者支援の現状について学ぶことで「できる人ができる範囲で」生活支援ボランティアの活動も展開しています。

困っている人は「困っている」と言えない

本当に困っている人は「困っている」とは言えないのではないかと。自分たちの特技を活かしたボランティア（施設における歌ボランティア等）だけではなく、困っている人の少しでもチカラになれるようなちょっとした生活支援をするボランティアができれば・・・



(成年団メンバー)



立場を越え まるごとつながるための 話し合いの場づくり ～ほおっちょけんネットワーク会議の取り組み～



江ノ口西地区



地域の中のちょっとした困りごとを共有し、解決に向けて検討するネットワーク会議を実施。住民の支え合いによる課題解決について話し合う過程を通じて助け合いの機運が高まっています。

つながりを紡ぎなおしたい・・・

このような取り組みは、隣近所の支え合いといった昔ながらのコミュニティの再生や課題解決のキッカケをつくる活動になると感じている。まずは、自分たちの中で情報を共有し、一歩ずつ進めていくことが大切だと思う。



(ネットワーク会議に参加した住民)

生涯勉強！

会に出席することで色んな人と知り合えたり、色んな事を知ることが出来て非常勉強になる。いくつになっても勉強は大切！！



(ネットワーク会議に参加した住民)

企業における実践事例



企業にできるボランティア

地域貢献って何から始めればいいのか？



マルハン(土佐道路店)



ねらい くふう

「地域に貢献したいという思いはあるが、何から始めればいいのか分からない。」そんなつぶやきから実現した学習の機会。職員の方々の日頃の気づきを共有し、企業人として地域住民として出来ることを考えることができました。

受講者の声

- ボランティアとして今まで取り組みを行ってきたことも、もしかすると地域のニーズとはズレてしまっている所があるかもしれなかったと、今までの活動を振り返る機会にもなりました。今後の活動に活かしていきたいと思います。
- 地域のニーズを聞き、企業として出来ることについて考える良い機会となりました。



(実施後のアンケートより抜粋)



企業にできるボランティア

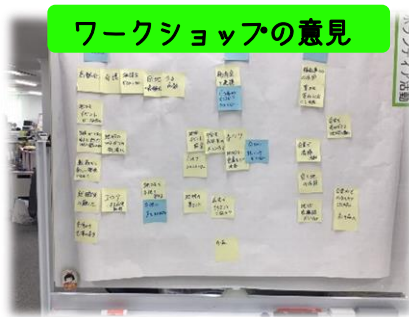
地域貢献って何から始めればいいのか？



日産サテライト高知



ワークショップの意見



ねらい くふう

法人営業部，保険部の職員10名を対象に実施。普段はあまり関わりのない福祉をテーマにしたグループワークを通じて自分たちの気づきを共有し，自分たちができることは何かを考えることができました。

受講者の声

- 地域での声掛けなど，困っている人がいたら意識をもって接したいと思う。
- 今すぐにでもできること，手助けが必要なこと等，様々なアドバイスがもらえました。



(実施後のアンケートより抜粋)



1. 福祉教育の「相談」から「実施」までの流れ

福祉に関する学習を計画される上で「授業の組み立て方について困っている」、「講師の情報を知りたい」など、各種相談をご希望される場合には、次の流れで高知市社協までご連絡ください。

Step 1

実施計画の検討

- ☑何を学びたい，学んでほしい？
- ☑どんな体験をしたい？
- etc..

授業や研修を行う【ねらい】【目的】について検討し、「こんなことができないかな？」といったイメージをしてみましよう。

Step 2

高知市社協へ相談

- ☑相談は原則
授業の2ヶ月ほど前まで
- ☑学習内容や流れ，講師などの検討
- ☑講師紹介が必要な場合には
依頼書で申し込み

具体的な内容が決まっていなくても、イメージされていることを基に、一緒に考えさせていただきますので、まずはご相談ください。講師の調整には時間が必要になります。2ヶ月程度の余裕をもって申し込みましよう。

Step 3

事前打ち合わせ

- ☑時間，準備等についての
打ち合わせ

当日が有意義な福祉学習になるよう、講師に全てをお任せするのではなく、一緒に取り組みましよう。

Step 4

当日

- ☑講師，地域の方々に対してお礼
を伝える

事前に打ち合わせに沿って、事故がないよう細心の注意をはらって学習に取り組みましよう。講師・地域の方々に対するお礼を忘れずに。

Step 5

ふりかえり

- ☑参加者が感じたこと，学んだこと
を振り返ってみる
- ☑振り返りをもとに次への取り組み
を検討する

実施後は必ずふりかえりの時間を設けましよう。話し合いや、感想文の作成、アンケート等、しっかりと振り返りの機会を持つことが今後の学習へと繋がります。



2. 実践する上でのポイント

ポイント1

参加者の感じたことは尊重しましょう！

参加者が“かわいそう” “何もできなくなる”など感じたとしても、その意見を否定せず、1つの考えとして尊重しましょう。ただし、負の印象のままで終わってしまわないよう、「自分とは違う他者を認め、尊重する心を育てること」が大切な要素となります。

ポイント2

参加者の考えを誘導しないように注意しましょう！

参加者の感じたことや意見を聞く前に、答えを誘導したり提示することは、参加者が自ら考えるということを阻害する可能性があります。参加者から気づきが生まれるように工夫しましょう。

また、他の参加者の意見を聞くことで、自分との違いに気づき、「感じ方は違っていい」ということが分かります。

例えば・・・

答えを誘導してしまう問いかけ例

「体験してみて大変でしたか？」

「怖かったと感じた人が多かったと思います」

「〇〇の人はかわいそうなので、みなさん声を掛けてあげましょう」



ポイント3

参加者も実践者もふりかえりの時間をつくりましょう！

学習を通じて何を感じ、何に気づいたのか、またそれを今後の生活にどう活かしていったのかなど、自分の考えを整理しながら他の人がどう感じたのかも聞けるようにしましょう。ふりかえりを行うことで新たな気づきにもつながります。

例えば・・・

参加者のふりかえりでは

○参加してどのような気づきや学びがあったか

○疑問に残ったことはあったか

○今回の気づきや学びを参加していない人に対してどのように伝えていくか

例えば・・・

実践者・協力者のふりかえりでは

○ねらい・目的は達成できたか

○参加者の反応はどうだったか？

○様々な人と協力して実践できたか

○今後に向けた課題や目標はあるか

○どのように次につなげていくか

様式集





ほおつちよけん学習（福祉教育） 依頼書

提出日 年 月 日 ()

学校名 (団体名)		担当者名	
連絡先		担当者(連絡先)	
対象	学 年： クラス数： クラスごと人数： 人数：		
依頼内容			
ねらい 目的			
実施候補 日時	第1候補： 第2候補： 第3候補：		
その他 (質問など)			

※依頼書確認後、社協担当者から連絡します。



ほおっちょけん学習（福祉教育） 打ち合わせシート

打ち合わせ日 年 月 日 ()

実施日時			
実施場所		担当者(連絡先)	
参加者	人	内訳(年齢構成)	
協力者			
プログラム について	ねらい・目的		
	内容		
	準備物品等		
その他			

高知市社協福祉教育推進マニュアル

ほおっちょけん学習のススメ

～高知市社協のすすめる福祉教育～

令和4年1月 第1版発行

編集:発行 社会福祉法人 高知市社会福祉協議会
〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目7番45号
総合あんしんセンター3階
TEL 088-823-9570 FAX 088-856-5549

この冊子は共同募金の助成
を受けて作製しました。

